

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 1 日現在

機関番号：82620

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009 ～ 2012

課題番号：21320033

研究課題名（和文） 諸先学の作品調書・画像資料類の保存と活用のための研究・開発
—美術史家の眼を引き継ぐ—

研究課題名（英文） Research and Development for the Preservation and Utilization
Art Object Survey Texts and Visual Materials Produced in Earlier
Studies

研究代表者

田中 淳（TANAKA ATSUSHI）

独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所・企画情報部・部長

研究者番号：00163501

研究成果の概要（和文）：

東京文化財研究所が架蔵する、かつて業務で使用した文化財関係資料や、元職員遺族などから寄贈された文化財関係資料には、肉筆のメモやスケッチ、調書、会議や研究会の配付資料、35mm スライド、16mm フィルムなど多種多様なものが含まれている。これらは整理が難しく、他の美術館・博物館や図書館、大学などでは敬遠されてきた資料であるが、稀少性の高いものも少なくない。それらを整理し、各資料群を把握するとともに、保存につとめ、今後、研究資料としての活用を視野にいれて研究と開発をおこなった。

研究成果の概要（英文）：

The various materials related to cultural properties in the NRICPT collection that were either produced by or used in earlier Institute operations, or donated by the heirs of former Institute employees; include a vast array of material types and media. These include handwritten memos and sketches, survey notes, conference visual aids, research group papers, 35mm transparencies and 16mm film footage. Given the difficulties involved in organizing such materials, many institutions tend to avoid them. And yet many of these materials are rare and valuable. Study and development has been conducted in how to organize and understand these materials, while at the same time preserving them in order that they might be utilized for research in the future.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	4,000,000	1,200,000	5,200,000
2010 年度	3,300,000	990,000	4,290,000
2011 年度	3,300,000	990,000	4,290,000
2012 年度	2,400,000	720,000	3,120,000
総計	13,000,000	3,900,000	16,900,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学 美学・美術史

キーワード：美術史、文化財資料、文化財アーカイブ、文化財研究

1. 研究開始当初の背景

美術作品の調査に際しては、調書が作成さ

れ、写真が撮影されるのが常である。しかしながら、作品の調査研究に際しては、作品そ

のものが研究対象となり、これまでに当該作品が誰の手によって調査されたかという調査履歴については、ほとんど残されることがなかった。また、先行調書あるいは調査作成時に併行して撮影された画像資料も、作品の調査時に反映されるが、専ら先行研究者の取得情報として公開される機会が少ないうえに、それらをまとめて収集・整理し、第三者の研究のために、どのような情報が必要であり、どのようなかたちでの情報提供が最善かという手法開発を含めて時宜が十分熟していなかったのが実情といえる。結果的に、ある作品の調査を行おうとする時、公刊された先行研究を参考にしながら、作品の調書を一から作成し、写真撮影も一から行うのが常であり、その作品に関する先行調査で得た情報が後進の研究との間で共有化されることがないままに、個別に調査・研究が進展してきたのも事実である。まして、作品が所蔵者の意向で原則非公開とされたり（秘伝など）、不幸にして罹災・譲渡転売等で消滅あるいは行方不明となってしまった場合、それらの作品を直接調査して作成された先行調書や写真の類は、当該作品の研究を行ううえで貴重であることは言をまたない。加えて、その作品がこれまでどのように伝来し、その過程で修理を受け、また、どのような展覧会に展示公開されてきたかという履歴データの蓄積についても、作品に関心がある個々の研究者の個人の手控えとして作成されることはあっても、それらの情報が恒常的に蓄積され、誰の目にも触れ得るといような機会もこれまでなかったように思われる。このように先行研究によって、実作品に即して作成された調書類（調査ノート・写真類等を含む）の収集と保存、ならびに、作品の展覧会履歴の蓄積と、それらの活用は、作品に即した研究を行ってゆくうえで、基礎情報となるばかりでなく、以後の作品の状況（経年変化・修理）・来歴（流伝）を知るうえでも貴重であり、文化財研究を行う上でも資するところは小さくないと考えられ、懸案事項であったといえる。

2. 研究の目的

本研究では、東京文化財研究所、および、同所と共同研究を行う諸機関が、調査者本人、もしくは、その意を受けた親族によって寄贈、あるいは、保管を依頼された美術作品に関わる多種多様にわたる資料群（自筆調書、写真等を含む）を研究資料として、現状の状況を確認しつつ保存と維持を目指すとともに、活用の道を探り、従来の美術史研究では見過ごされてきた関連資料などについても将来的に活用できるようにすることを旨とする。

対象とする資料は、刊行物のように分類・管理が容易なものばかりでなく、肉筆のメモやスケッチ、会議や研究会の配付資料、35mmスライド、16mmフィルムなど、実に多種多様なものを含んでいる。これらは整理が難しく、美術館・博物館や図書館、大学などでは敬遠されてきた資料でもあるが、稀少性の高いものも少なくない。これらを逐次、近年のアーカイブの動向と公開を見据えて整理を進めるとともに、どのような公開の仕方が適切かについての研究をすすめた。

3. 研究の方法

従来、漠然と把握されていた以下の各資料群について、全体像を掌握するためデータベースづくりに努めるとともに、あわせて、それぞれの保存状態についても、確認作業を行った。

- 1) 矢代幸雄氏収集の文化財関係写真資料類の調査・整理
- 2) 黒田清輝宛書簡の調査・整理
- 3) 田中一松氏旧蔵の自筆調書・研究資料類の調査・整理
- 4) 高田修氏旧蔵の写真類、研究資料等の調査・整理
- 5) 久野健氏旧蔵の自筆調書類、紙焼写真類等、研究資料等の調査・研究
- 6) 秋山光和氏旧蔵の絵画資料35ミリスライドの調査・整理
- 7) 田中助一氏収集の郷土資料（萩博物館蔵）の調査・整理
- 8) 田中敏男氏撮影の16ミリフィルム映像資料の調査
- 9) 現代美術資料—画廊等のDM・目録等の調査と整理

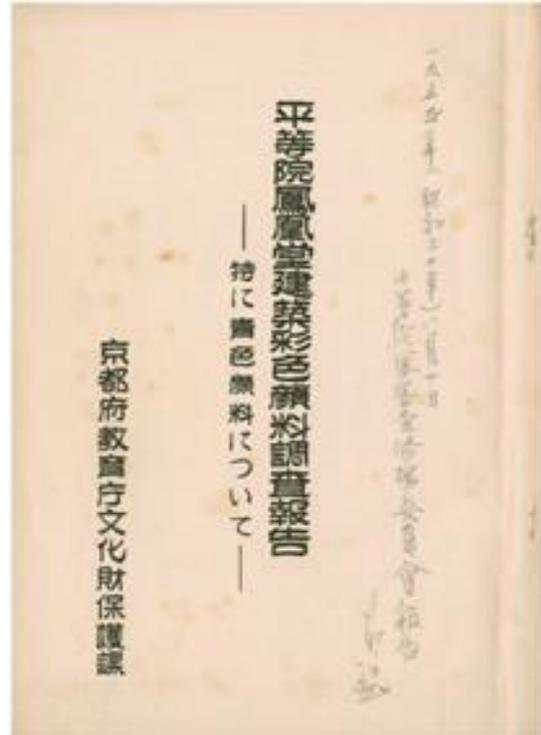
いずれの資料群においても、資料ひとつひとつの内容を確認しつつ、目録づくり等をおこない総体の把握につとめ、あわせて、劣化しつつある各資料を画像スキャンすることで、資料そのものの劣化進行の防止と保全をはかり、画像データとしての蓄積をすすめた。あわせて、画像による公開・利用のための望ましい手法の研究を行った。その過程で、先行研究者がどのような作品に関心を持ち、調査に臨んだか、収集の時期などを極力、明確にしてゆくように努めた。また、写真類（ガラス乾板、各種フィルム・白黒紙焼き写真）は劣化が進行しているものも多く含まれるため、保存と活用の方針策定を行い、それに則って適切な処理と利用に努めた。

4. 研究成果

それぞれの資料群の全体像を把握すべく、基礎データベースづくりを行ったが、資料ごとにデータベースが林立することで、文化財アーカイブとしての全体像が見えにくいという問題を解決すべく、研究代表者の所属する東京文化財研究所で運用中の書籍・展覧会カタログ・美術文献・写真原板などのデータベースと、田中一松・久野健・梅津次郎の各資料の基礎データを統合させたデータベース（総数約 635,000 件）を試作した。それをもとに研究会を開催して、様々な形態で存在している文化財資料を一括して検索できることを確認した。あわせて、この統合によって、個々の資料が蓄積されていく過程で、先行研究者が何に関心を持ち、作品にどのように向かいあったかについての傾向の一端をうかがい知ることができ、しかも、研究者各人が個別に研究を進行させてきたのではなく、時として併行的に、あるいは、複合的に進行していた当時の研究動向を浮き上がらせることが出来そうであることを確認するに至った。

西暦	文献・図書	作品・文献・資料名	所属・所蔵・書名	所	資料名	資料
19380400	森・巖	平等院院図考	建築学会論文集	9	文献SQL	文献
19390001	金原・徳	平等院阿含院如来像と聖光院本尊	国史		文献SQL	文献
19391015	玉虫・龍三郎	宇治平等院を説く	観光美術		文献SQL	文献
19410212	杉山・健三	平等院鳳凰堂に関する二、三の問題	語学	16	文献SQL	文献
19411001	田中・重久	平等院と其の阿含院堂の荘厳	史迹と美術	131	文献SQL	文献
19411001	坪井・高平	平等院の構造年代に就て	史迹と美術	131	文献SQL	文献
19411101	藤・豊治	田中重久氏の「平等院と其の阿含院堂」	史迹と美術	132	文献SQL	文献
19411201	金原・徳吉	阿含院如来像（宇治平等院）	造形教育		文献SQL	文献
19411201	田中・重久	純平等院阿含院堂と其の荘厳	史迹と美術	133	文献SQL	文献
19420201	佐藤子	宇治平等院論論について	史迹と美術	135	文献SQL	文献
19420401	森田・高一郎	平等院鳳凰堂本尊後聖徳太子の主題について	史迹と美術	137	文献SQL	文献
19420401	坪井・高平	佐藤子の「宇治平等院論論について」	史迹と美術	137	文献SQL	文献
19420801	森田・高一郎	再び平等院論論について	史迹と美術	141	文献SQL	文献
19440601	福山・健男	宇治平等院境内古園に就いて	史迹と美術	162	文献SQL	文献
19440701	福山・健男	宇治平等院の小御所に就いて	考古学雑誌		文献SQL	文献
19441201	森田・高一郎	平等院鳳凰堂本尊後聖徳太子考補	史迹と美術	166	文献SQL	文献
19480102	河野・政太郎	平等院と山内堂の造像	基道雑誌		文献SQL	文献
19510315	中村・二納	平等院鳳凰堂本尊	京都、観光と美術	7	文献SQL	文献
19511001	福山・健男	宇治平等院の荘嚴と納和歌集記（上）	史迹と美術	217	文献SQL	文献
19511101	福山・健男	宇治平等院の荘嚴と納和歌集記（下）	史迹と美術	218	文献SQL	文献
19521201	藤部・勝吉	平等院鳳凰堂の彫理について	国立博物館ニュース67		文献SQL	文献
19530601	森・巖	平等院の美術	京都、観光と美術	32	文献SQL	文献
19550215		福山健男平等院本尊図			田中一松	調書
19550731		平等院鳳凰堂の地面図写	文化財（季刊）	3	文献SQL	文献
19550810		平等院鳳凰堂落書き	平等院鳳凰堂		田中一松	調書
19550810		平等院鳳凰堂建築彩色顔料調査報告			田中一松	公刊物
19550930	大森・健二	平等院鳳凰堂彫像の落書き	仏教芸術	26	文献SQL	文献
19560222	福山健男	「平等院鳳凰堂の彫像について」			久野健	ノート
19560315	宮城・敏夫	平等院鳳凰堂	日本工芸	6	文献SQL	文献
19560404	平等院鳳	平等院鳳	会報、日本屋		古美術展	カタログ
19560600	平等院鳳	平等院鳳			梅津次郎	写真
19560601	文川・三郎	平等院のつらね	MUSEUM	63	文献SQL	文献

統合版データベースのデモ画面



田中一松旧蔵資料より《京都府教育庁文化財保護課『平等院鳳凰堂建築彩色調査報告書—特に青色顔料について』》

※今回のデータベース試作において明らかになった資料であり、今日、美術史用語として一般的な使用が認められる「代用群青（だいやうぐんじょう）」という用語の初出例とみられることが明らかとなった。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1 件）

綿田稔、研究資料 御絵鑑一元禄十三年板の画法書一、美術研究、査読有、408 号、2013、105—112

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.tobunken.go.jp/japanese/katudo/index.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田中 淳 (TANAKA ATSUSHI)

独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所・企画情報部・部長

研究者番号：00163501

(2) 研究分担者

山梨 絵美子 (YAMANASHI EMIKO)
独立行政法人国立文化財機構東京文化財
研究所・企画情報部・副部長
研究者番号：30170575
二神 葉子 (FUTAGAMI YOKO)
独立行政法人国立文化財機構東京文化財
研究所・企画情報部・情報システム研究室
長
研究者番号：10321556
綿田 稔 (WATADA MINORU)
独立行政法人国立文化財機構東京文化財
研究所・企画情報部・室長
研究者番号：40356275
津田 徹英 (TSUDA TETSUEI)
独立行政法人国立文化財機構東京文化財
研究所・企画情報部・室長
研究者番号：00321555
塩谷 純 (SHIOYA JUN)
独立行政法人国立文化財機構東京文化財
研究所・企画情報部・室長
研究者番号：90311159
小林 公治 (KOBAYASHI KOJI)
独立行政法人国立文化財機構東京文化財
研究所・企画情報部・室長
研究者番号：70195775
小林 達朗 (KOBAYASHI TATSURO)
独立行政法人国立文化財機構東京文化財
研究所・企画情報部・主任研究員
研究者番号：10342940
皿井 舞 (SARAI MAI)
独立行政法人国立文化財機構東京文化財
研究所・企画情報部・主任研究員
研究者番号：80392546
江村 知子 (EMURA TOMOKO)
独立行政法人国立文化財機構東京文化財
研究所・文化遺産国際協力センター・主任
研究員
研究者番号：20350382
城野誠治 (SHIRONO SEIJI)
独立行政法人国立文化財機構東京文化財
研究所・企画情報部・専門職員
研究者番号：70470028
中村 明子 (NAKAMURA AKIKO)
独立行政法人国立文化財機構東京文化財
研究所・企画情報部・特別研究員 (アソシエト
フェロー)
研究者番号：10535686
井上 さやか (INOUE SAYAKA)
独立行政法人国立文化財機構東京文化財
研究所・企画情報部・特別研究員 (アソシエト
フェロー)
研究者番号：50535862
鳥光 美佳子 (TORIMITSU MIKAKO)
独立行政法人国立文化財機構東京文化財
研究所・企画情報部・特別研究員 (アソシエト

フェロー)

研究者番号：70535682
橋川 英規 (KIKKAWA HIDEKI)
独立行政法人国立文化財機構東京文化財
研究所・企画情報部・特別研究員 (アソシエト
フェロー)
研究者番号：20637706
中野 照男 (NAKANO TERUO)
独立行政法人国立文化財機構東京文化財
研究所・企画情報部・客員研究員
研究者番号：20124191
森下 正昭 (MORISHITSA MASAOKI)
独立行政法人国立文化財機構東京文化財
研究所・企画情報部・客員研究員
研究者番号：80535865
土屋 貴裕 (TSUCHIYA TAKAHIRO)
独立行政法人国立文化財機構東京国立博
物館・学芸研究部調査研究課・研究員
研究者番号：40509163
勝木 言一郎 (KATSUKI GENICHIRO)
独立行政法人国立文化財機構東京国立博
物館学芸企画部博物館情報課・室長
研究者番号：50249918
相澤 正彦 (AIZAWA MASAHIKO)
成城大学・文芸学部・教授
研究者番号：10159262
三上 豊 (MIKAMI YUTAKA)
和光大学・表現学部・教授
研究者番号：60329018
吉田 千鶴子 (YOSHIDA CHIZUKO)
東京藝術大学・美術学部・非常勤講師
研究者番号：30401483